

令和7・8年度 第2回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議
議事要旨

日時 令和7年12月22日（月）午後2時から午後3時30分まで

場所 大田区役所本庁舎 第3、4委員会室

出席者 名和田委員（会長）、井上委員、海老澤委員、笈川委員、
大島委員、金田委員、近田委員、近藤委員、嶋村委員、
鈴木委員、高橋委員、津久井委員、中村委員（役職・50音順）
※倉持委員（副会長）、中野委員 欠席

1 開会

【事務局】

第2回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議を開催する。

会議録の作成のため、議事の録音及び写真撮影をさせていただく。

今回の会議からスポーツ協会事務局長の井上委員、社会福祉協議会事務局長の近藤委員にご出席いただく。

なお、倉持委員、中野委員は、所用のため欠席されている。

関係所属として、区民協働・多文化共生担当課長の井上、大森西特別出張所長の小池、スポーツ推進課長の大竹、文化芸術推進課長の三上、教育総務課長の鈴木、大田図書館長の杉村が出席させていただく。

2 会長挨拶

【会長】

地域コミュニティについての研究の中でいくつかアンケート調査を実施している。大田区でも生涯学習に関する基礎調査が行われており、研究と関連づけて皆様方のご意見に耳を傾けて学んでまいりたい。

議題に入る前に、会議の公開について述べさせていただく。

推進会議運営要綱第7条に、「推進会議は、原則として公開とする。ただし、1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがある

と認められる場合、2 特定の者に不当な利益または不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本日の会議は公開とする。

会議の内容については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区のホームページにおいて公開する。

3 議題

【会長】

議題について、まず事務局から説明いただきたい。

【事務局】

資料に基づき説明

【会長】

本日は方向性や改定されるプランの骨子を決めるわけではなく、自由に幅広くご意見をいただきたい。ご意見を材料に事務局が素案を作っていくため、資料に書いていないが重要だと思われる点も指摘いただきたい。いかがか。

【委員】

国の調査からわかる生涯学習の傾向の中で、デジタルという言葉が多く聞かれたが、資料中のプラン改定の視点には、あまりデジタルというところが見えなかった。もっと踏み込んだところに入るのかもしれないが、その点についていかがか。

【事務局】

デジタル化については、現在も進めており、生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」において、社会教育関係団体の情報が検索できたり、オンラインで視聴できる講座を用意したりしている。それぞれの視点の中にデジタル化という要素は取り込んでいるところだが、デジタル社会に向けて次期プランを打ち出していきたいと考えている。

【会長】

内閣府の調査はコロナ禍に行っており、私自身の経験から言うと、コロナ禍は特殊だと思っていて、そのバイアスが内閣府調査にはあるかもしれない。他

方で、AIやICTの問題はやはり今後重要になってくる。AIの進展は目覚ましいものがあるので、改定されるプランの中で、留意して扱うべきではないか。他にいかがか。

【委員】

区民として実際に学びの活動に参加している経験から3点申し上げたい。

まず1つ目は、学びの裾野を広げることを視점에挙げているのは、ありがたいことだが、団体への加入を希望したところ、定員の関係で断られることがあった。問題点としては、全ての団体ではないが、会員の固定化が見られる。新たな生涯学習センターの設置も視野に入れて、受け入れを増やすことができればよい。学びを希望する人の気持ちを失わないように何か参加できる機会を設けていただけたらと思う。

2つ目は、つながりの創出という観点で交流の機会を増やすという説明をいただいた。私は、区内を散策するイベントに数回参加したことがあり、その際には、できるだけ他の参加者と話すようにしている。しかし、その会が終わったあとにお茶に誘うような感じにはならない。せっかく交流のチャンスがありながら、恐らく一般区民の方はそこで終わり。見学が終わった後に10分程度でも感想を言い合う会があれば交流に繋がり、交流したという気持ちになれると感じている。

3つ目は、生涯学習ウェブサイトについて。よくできていると思うが、どれだけの高齢者が自分でウェブサイトを検索して、実際に会に参加しようと思うのかというと、なかなか厳しいのではないか。例えば、地域包括の人が家に来て、一緒に見てくれて、実際に会へ体験の問合せメールを送るとか、そういうところまで一緒にやってくれれば、生涯学習ウェブサイトが有効に機能するのではないか。

【会長】

2点目は、講座の組立てとして、講座が終わったところで、文化センターのロビーで少し交流をするなど、社会教育指導員に色々と知恵出ししてもらえるのではないか。3点目は、コーディネーターとして、人に教える仕組みをつくり、そのような関係性が活動団体の中に生じるとよい。

【委員】

人との繋がりをつくっていくという点で、文化センターを利用している立場から申し上げる。区民大学や社会教育課で実施していた講座の延長としてサークル化したところが結構あり、30年、40年続いているものが多い。自然発生的に自分たちで仲間をつくってお茶会をしようというところはほとんどないのが現状で、自分たちの仲間だけで活動ができなくなったらお茶を飲む会だけでも続けているところがあるというのが一つの現状。

大田区でも色々な文化センターの利用団体があり、文化センターまつりで裏方を引き受けるなどすごく協力的なところもあるが、そうでない人たちもいる。そういう人たちを含めて文化センターの中で仲間をつくっているのが現状。

サークルとよく話してみると、会員が5人くらいに減ってしまっているところも多く、一人でも入ってほしいというところがかかりある。

仕掛けとして、例えば一年にわたって何回も講座をやることで、段々と話すようになり、講座が終わったあとにちょっと飲みに行こうということもあり得る。

【会長】

文化センターのある種の組織力みたいなものもある。他自治体で調査すると、活動団体の寿命は大体20年。20年後に調査するとほとんど入れ替わっているということがある。

アンケート調査の報告を聞きながら、会員の減少の問題を町田市調査と比べると数字が多い。なぜかと思うと、やはり続くような働きかけがされていて、だからこそ会員減少が悩みだと。その辺りの構造が委員の発言で見えたと思うし、そこを克服するための方策もご発言いただいた。さらにいかがか。

【委員】

おおたまなびの森、デジタル化のことで補足させていただきたい。おおたまなびの森を事前に見てきたが、先日の会議の時とあまり代わり映えがしなく、初めて使う方や講座を探している方にとって、親切なつくりになっていないと感じる。世田谷区だとeカレッジがあり、トップページが明らかに違う。もう少しボタンを使いやすくしたり、バナーを付けたり、受講してみたいなという気持ちになるようなレイアウトに直されることを期待したい。

【会長】

他にいかがか。

【委員】

大田区社会福祉協議会の第7次地域福祉活動計画は、評価を数値目標ではなく、イベント等においてアンケートをとりながら、立てた目標に対してどの程度住民の方が理解、満足してくれたかという視点で行っている。毎年、住民懇談会を開催していて、そこで出てくるテーマは、先ほどの視点とかなり重なっていて、圧倒的に多いのが、身近な相談場所と居場所づくり。社会福祉協議会は、地域づくり、参加支援も行っており、各団体に対し色々な社会資源を繋げている。18の地域で自治会・町会、民生委員、学校関係者などあらゆる人に、まずは集まってもらって、地域のプラットフォームになろうと、強い繋がりではなく、緩やかに繋がることから始めている。

担い手や後継者がいないと言いながら、新しい人を受け入れるのが、活動団体によっては少し苦手な状況があるようだ。当然、人が増えてくれば色々な意見が出てくる中で、既存の方とうまくいかないというところまでできてきている。住民懇談会は、どちらかというところまで活動をしてきた人たちが中心となっていて、年齢層も比較的高い。700件くらい意見が出てきており、内容も今日出てきたテーマに近い。おおたフェスタでも同じようなアンケートを実施したが、こちらは回答者が30代、40代と若い年齢層が多かった。ただ、アンケートの回答結果は、どちらも同じような傾向だった。

アンケートからは、何かに参加しようと思っている人は多い。ただ、若い人は昼間働いているので、どのような形で参加したらよいか分からない、ちょっとならばボランティアに参加できるなどの声が出ている。ハードルの低い、ちょっとしたきっかけづくりのような場が求められているのだと思う。

【会長】

地域福祉の世界とは類似した構造があると私も感じている。若い世代の意識についても言及いただいたので、アンケート調査の年代層別の分析からプラン改定の手がかりを得ることも必要ではないか。他にいかがか。

【委員】

区民文化施設の施設管理をしている立場から申し上げる。アンケートにあったが、やはり公共施設を一つの大きな活動場所に行っている。ある事例を紹介す

ると、美術室でゲームをやる、ホールでカラオケをやるなど、それ自体が悪いことではないと思っているが、区の施設には、かなり古くに作られた利用目的の制限が残っており、今の多様な文化活動にマッチしていない。カルチャールームという部屋があれば何をしてもいいことになるが、若い世代は仕事もあるので、時間が合わない。生涯学習センターも夜中は営業しないのだと思う。仕事を終えてから相談できる場所があるとよい。私も文化活動をしているが、練習後の飲み会は減った。若い人ほど早く帰る傾向がある。昔は活動よりもその後の交流の方が楽しかったが、最近はなくなってきているので、その考え方に合った活動をしていかないといけない。サークルの考え方と新しく入った人が馴染むような雰囲気というのは、なかなか難しいと感じている。例えば、公共施設であれば、用途に関しては、もう少し柔軟な設定をするなど。また、施設の夜間の使用料金が高く、空いていることがある。使用料金も時代に合った形に見直していく必要があると思う。まとめると、施設の利用目的の緩和、料金体系の見直し、この2点で新しい人たちも参加できる余地があるのではないかと。先ほどデジタルの話があったが、利用相談の開いている時間の問題もあるので、AIが相談に乗るとか、夜間はAIコンシェルジュが代わりに質問を受けるなど、うまくデジタルと対面を組み合わせたとサービスができると裾野が広がるのではないかと。

【会長】

用途制限は、必要があれば条例などを改正して対処できるわけだが、文化センターなどの公共施設が歩いて行けるところにあるのは大田区の強みだといえる。さらにいかがか。

【委員】

アンケート調査結果を見ると、5割以上の方が生涯学習を行ったことがあると回答していて、こんなに何かしらやっているのだなと改めて思った。また、7割近い人が今後生涯学習をやりたいと回答していて、すごいなと思った。

自治会や町会は、年間を通じて何かしらの活動をしている。アンケートにもあるように役員のなり手がなくて、一番上の役員だけでやっているというのがずっと続いている。いつもやっていると、今度どうしようかとなった時に、前回と同じでいいねとなってしまう。これが一番まずいと思っている。新しい

人が来ても新しいことができるような会にしないといけないと思っはいるが、いざやるとなると、前回と同じでいいねという自治会が多いので反省している。うちの近所を見てみると、お隣同士なら何とか顔はわかるが、2軒、3軒先になると誰だかわからない状況。自治会でも行事の回覧板など回して募集するが、ほとんど反応がない。それでも来る人は来る。スポーツまつりをすると1,000人ほど集まるが、人口はそれの10倍いる。お隣同士の関係が本当に希薄だが、挨拶くらいするような地域にしたいなと思っている。アンケート結果を見て、みんな前向きに考えているのが垣間見えたので、これからも頑張ろうと思う。

【会長】

資料の中で、地域のつながりが希薄化しているというところがある。地域付き合いをしている人が減って、付き合いしていない人が増えているが、割と安定しているので、基盤はあるのではないか。要は、取組方ではないかと思っている。地域力が低下している兆候は、色々な調査で表れているが、付き合いたいとか、程々に付き合いたいとか、そのような数字は意外と安定している。こういうところにつかかきを見出して取り組んでいきたい。他にいかがか。

【委員】

今年は、スポーツ業界に大改革があった。スポーツ振興法の改正によりスポーツ基本法が大改正された。する・見る・支えるという3定義はよく使われたが、プラス「集まる・つながる」というのがキーワードで入っている。特に国はスポーツを人と人が繋がる場所として、地域社会のきずなを育む文化として、心身の健康への貢献、人を幸せにするインフラとして位置付けると明確に打ち出している。スポーツ協会の加盟団体は、現在、52団体で、都内で一番多い団体数となっている。52団体もあると、課題はかなり幅広く、それぞれの団体によって違うが、一番多いのは、会員の高齢化や減少。特に古典的なスポーツになるとその傾向が増しており、新しいスポーツになるとあまり出てこない。これは、時代のニーズに合った内容を盛り込むことで、課題解決の糸口を団体が見つけているところだと感じている。スポーツというのは、社会課題を解決するツールであるということをスポーツ協会の人間も認識して進めていかなければならない。特にICTの活用は、情報発信として使うのか、運用なのか、競技として使うのか。それぞれの競技で考えるべきことであろうと思っている。

生涯学習とは類似する課題が非常に多いので、スポーツを道具として使っただけのもいいかなと思っている。

【会長】

今回の区が行ったアンケート調査は、およそ 2,000 団体に上るが、半分はスポーツ団体だと聞いている。スポーツの世界で頑張っただけとかなり効果があると思っている。さらにいかがか。

【委員】

我々の団体は、どちらかという子どもの親に対する教育を大事にしている。子どもを育てるには、常に新しい知識が必要で、自分たちが子どもの頃にはなかったものが今の時代にはある。その知識を親が持つことが非常に重要で、どのような知識が必要か、どのようにしないといけないか親に対して教育を行うことが大切。一番のジレンマが、興味がある人は興味を持って取組むが、そうでない人は全くやらないということ。いかに興味のない人に知識を持ってもらうかが一番大事。社会教育の観点から言うと、そのような親にどのように届けるか。例えばPTAと協力して、講演会に参加するとポイントをもらえて、PTA活動の一環として認められるなど。逆に子どもは情報を得るのがものすごく速いので、フィルタリングなどで情報を制御する必要がある。親に対する教育ということでこの問題を捉えている。

【会長】

他にいかがか。

【委員】

小学校にはクラブ活動、中学校には部活動があり、それぞれ一生懸命頑張っている。生涯学習のくくりで考えてみると、いかに色々な体験ができるか、体験を大人になってどのように生かしてもらえるかという視点で体験活動などを行っている。どんなものがあれば小学生も参加できるか考えていたが、見学体験があると子どもたちも興味を持ってくれるのではないか。学校ではなかなかできないところの見学や、親子での参加などもよいかと思う。

スマートフォンなどの通信機器は、大人よりも子どもの方がわかっていて、学校に行けない子も仮想空間であれば入れることもある。そのような場があれば、なかなか学校に行けなかったり、人間関係が保ちにくかったりという子ども

もたちも気軽に入っていけ、そこで交流ができる。さらに何か学べるなどがあると広がっていくのかなと思っている。

【会長】

他にいかがか。

【委員】

国際都市おおた協会は、外国人の方だけに事業を行っているわけではなく、相互理解を進めていくための取組みを行っている。外国人を取り巻く問題はたくさん聞かれていると思うが、意思疎通が困難なことが大きな問題ではないかと現場では感じている。言葉や文化の壁により、学校や生涯学習の場でも孤立しないような役割を果たしていけるか考えながら事業を実施している。どんな場面であっても支援という形だけではなく、日本語の教育や交流に繋がるような機会を少しでも多くつくっていったらいいと思う。

【会長】

他の自治体の話だが、外国籍市民の方に日本語を教えるボランティアに行ってみたら、外国語がどの程度できるのかと冷たい対応をされたという話がある。かなり外国語ができる人のための活動団体はもちろんあってもいいが、ちょっとしかできないが何かしたいという人を受け入れる場もないといけない。色々なレベルが用意されていて、その情報がきちんと伝わることも必要なのだと思う。他にいかがか。

【委員】

この 10 年、20 年の日本を見ると、成長はどこかで緩やかに、あるいは減速していくというところを一人一人の感覚として感じているかというところに、かなり世代間で認識の差があると思っている。私は成長の尻尾くらいをずっとついてきたので、先輩方は、色々なものをつくってきた、広げてきたというが、それが大体終わりかける、弱くなってきたときに任せられてしまう。そのことを生涯学習のサークルに合わせて考えてみると、団体のたたみ方を実は一生懸命考えなければならないのではないかといつも思っている。ずっと大事にしてきたものだが、それも生まれては、どこかでなくなって、新しく始めて、その人がどんどん受け皿になっていくというような形でも繋がっていくならばいいのかなという感覚になれると、サークルをたたむということも受け止められる

よくなるのではないかと感じている。そうすると、物事をスリムにしながら、もう一度やりたいことを持っている人たちが自分たちの何かをつくり始めるというところに思いとエネルギーをつぎ込むことができる。そういう気持ちは、若い人たちの心の中にたくさんあると感じている。彼らなりの今の時代のスピード感や人生観というものがあるのかもしれない、そういうものも理解しないといけないと思っている。そういうものが汲めたら未来に続く大田区というのが見えてくるのかと思う。

【会長】

私はまさに高度経済成長の真ただ中で子供時代を過ごしたが、今の学生とは前提となる感覚が違っていると感じる。そういう人たちが大人になっていくので、我々も留意して議論しないといけない。

委員へ質問だが、内閣府調査の中では、リスキリングのニーズが高いが、他方で 80 年代に中教審などがとても強調していたように記憶している。実際に生涯学習における学びでは、あまりリスキリングの話が出てこないように感じるが、実態としてはいかがか。

【委員】

私の知る限りで日本の社会教育は、伝統的に労働者教育と距離ができてしまったところがあり、それが今の日本において働くことと距離が生まれてしまっていることに繋がっていると思っている。むしろ大田区は、高度成長期を支えてきた若い労働者のための青年教育が今の大田区社会教育、生涯学習の基盤にあると聞いている。そこは大田区の特徴として大事にして、その大事な経験を持っていることが、町の皆さんに共有されている大事な土地の経験のようなものになるのではないかと考えている。

【会長】

大田区に関わり始めたのが昔からではないので、そのような側面については、初めて意識した。他にいかがか。

【委員】

保護者としては、子供が中学校に上がれば自分の時間ができる人が多いように思う。学びたい人もいれば教えたい人もいる。学びたい人と教えたい人のマッチング機能はすごく重要になってくると思う。

福祉施設連絡協議会に先日参加したが、そこで包括支援センターの方から相談があった。高齢者の方がとてもかわいらしい折り紙ができるので、それをどこかで教えたいが、大きな会場、大人数は難しく、数人に教えたい、というものだった。そうすると福祉施設側の方が、何か地域の方にやってほしいと思っているが、場所の狭さに悩んでいたとのことで、まさにこれがマッチングだなと感じた。地域、町会の色々な問題事の解決策にもなるようなマッチングの体験をして、地域という本当に小さいところからやっていくことができるのだなと身をもって感じた。

【会長】

社会福祉法人の地域貢献の一環ではないかと想像するが、それはとても地域にとってありがたいことで、小規模な学習の場を提供することは、社会福祉法人の部屋を借りてもできるのではないかと思う。文化センターという貴重な財産を持っているが、集まるという機能は企業など色々なところを持っているので、目配りしていくべきだと思う。他にいかがか。

【委員】

プラン改定の視点についてだが、身近なところで区民として好事例があったため、2つ紹介したい。

1つ目は、千束のシニアステーションだが、アクティブシニアの方が非常に集まっていて、明るく活動されている。また、自分が得意なことを教えたいと住民の方が集まってこられている。そこには素晴らしいリーダーがいて、リーダーがそのような声を受け入れて形にするという力をお持ちだと思った。

2つ目は、大田区で区民活動コーディネーターの養成講座をしていて、これは、プラン改定の視点を網羅している良い事例だと思った。打合せの場を設けたり、動画を配信して事前に予習できるようにしたり、何よりもそこを卒業した方が活躍していける場が用意されているなど先生がコーディネートしていた。やはりリーダーなどの引っ張っていく方や教える方が大事なのではないかと思う。リーダーを啓蒙していく場というのも必要なのではないかと思った。非常に身近なところで成功している事例や、ちょっと改善すればうまくいくこともあるので、ぜひ取り入れていただきたい。

【会長】

今、社会教育指導員が文化センターを巡回する形でコーディネートをしているが、色々な人たちを結びつけていく、そういうスキルを身に付けて広めていただくというのが必要だと思う。いずれ成果を報告いただいて審議したい。

他の自治体のアンケートでは、団体の活動の中身がわかるようになっていて、とくに生涯学習と福祉のどちらにも丸をしている団体の動向はなかなか面白い。恐らく、学びを生かして福祉活動をしているが、事業性などにおいてそれほど本格的ではないみたいな、そういう姿が見える。生涯学習の団体が学んでいる中身にも留意して分析していったらどうか。

地域コミュニティを考えるうえで、町会・自治会の動向は非常に気になるところ。大田区もだんだん加入率が低下していて難しい問題だが、東京都の他の自治体の動向を見ているとどこかで安定するのではないかと考えている。町会・自治会が今後どのようなことを考えてどのような活動を重視していくかということも今後話題になるのではないかと個人的に考えている。そのときに生涯学習がどのような役割を果たすことができるか皆様とぜひ考えていきたい。

居場所についてだが、文化センターのロビーは全国の同種の施設からみても広くとられているように思う。あれも一つの居場所だと思う。地域の全ての人の居場所と出番があるというような社会を目指して、どう生涯学習が貢献できるかということも今後考えていきたい。

審議を終了し、進行を事務局にお返しする。

4 閉会

【事務局】

閉会にあたり、地域未来創造部長からご挨拶申し上げます。

【地域未来創造部長】

師走のお忙しい中お集まりいただき、また、多くのご発言に改めて感謝申し上げます。

師走なので、今年を振り返りたい。まずは、春闘。2年連続で5%を超える賃金増となり、健全なサイクルが動き出しているように思う。一方で、リスクリング、資産運用などの学びも必要になってくると思う。

次に、国際情勢。今年は戦後80年にあたり、この学びというのは非常に重

要だと思っており、アーカイブなどを用意して我が国の安寧の一助を担ってまいりたい。

次に大阪・関西万博だが、A I、V R、i P S細胞医療などが盛んに取り入れられており、これは未来社会の変革になるのだろうなと感じた。

今、新しい時代の転換期にあるのだろうと思ったのが2025年だった。

皆様のご発言を伺っていて、情報提供の仕方と講座のやり方に収れんできるかと思った。事業の提供の仕方、また、移りゆくコミュニケーションをどう捉えていくかというところが大きいかと思う。

また、生涯学習の内容では、その時代ごとに生涯学習のテーマというのは大きく変わっており、皆様がお話になられたことも肌で感じる場所があった。

公共施設の話だが、時代を捉えて公共施設のありようを展開していくと考えている。例えば、文化センターでは、調理室を多目的化する動きもある。一方で、様々なご意見もある。調和を図りながら、多様な時代の変遷にしっかりと応えていきたい。

今日いただいたご意見、ご発言を糧に新しい時代を迎えてまいりたい。

新年を心穏やかに迎えいただき、年が明けたら、大田区政をすすめるうえで、ご指導賜りたい。

【事務局】

事務局から最後に事務連絡をさせていただく。次回は、2月下旬に書面で開催を予定している。本日の議論の内容を反映させたプラン改定の視点を郵送でお送りし、ご確認をお願いする予定。追加のご意見については、1月9日までに事務局へお寄せいただきたい。

それでは、以上をもって閉会とする。

5 委員からの追加意見（プラン改定の視点について）

- ・文化センターが住民の希望に応えられるような施設として発展することを望む。特に防音を意識した改修工事が行われればと思う。
- ・各分野の専門家の視点からのご意見を聴けて、大変勉強になった。